

# 専徳寺報

第458号

令和3年3月1日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

ついたち礼拝 | 毎月一日・午前9時より45分間。お待ちしています

〒740-0044 岩国市通津2764  
☎0827-38-1124 FAX38-1000

岩国市 専徳寺 検索  
<http://sentokuji-iwakuni.net/>

Youtube  
「ひかりといのちきわみなき」



## 春季讚仏会法要

御案内

昨年休座した春彼岸会を再開します。短い時間ですが、その分、集中してお聴聞できます。新しい事を始めやすい季節。まだ一度も法座へ参つた事のない方も是非、お参りください。お待ちしております。

日程

3月12日(金) 昼 1時半〜2時半

13日(土) 朝 10時〜11時

講師

本願寺布教使

有國 智光師 (周南市)

- ・二日目は朝です。
- ・三密回避にご協力ください。
- ・飲み物・マスクはご持参ください。
- ・検温をしておこしください。
- ・本堂(50名)の席が一杯になれば、庫裏でスクリーンにてお聴聞していただきます。
- ・ご自身の体調面など考慮され、参拝の可否をご判断ください。

●参拝セット(念珠・聖典・式章・聴聞カード)

どうぞお持ちください。

声に出して読みたい念仏の詩

(丑年生まれの人へ)

忘れていた 忘れていた

(東井 義雄)

忘れていた 忘れていた

一生けんめい 生きてはきた

忙しい 忙しいと 生きてはきた

しかし 牛のように

よろこびの日も かなしみの日も

大いなるものの誓いを信じ

願いをかみしめ

ひと足 ひと足

ひと事 ひと事

ひと時 ひと時を

踏みしめ 踏みしめ

大切に生きさせていたたけのでなかったら

どんなに忙しく生きて

せっかくだらした ただ一度の人生を

むなしく過ごしてしまうことになるのだ

ということ

忘れていた

忘れていた 忘れていた

いろいろなたくさん(もりば) 貪り読んできた

聞かせていたたけ(もりば) にも努めてはきた

しかし 牛のように

そのひとつひとつ

なんべんもなんべんもよくよく(か) 噛み砕き

味わい



おりにふれ  
 ことにふれて それを  
 なんべんもなんべんも 食<sup>は</sup>み返しし  
 完全消化して 血にし 肉にし 骨にし  
 生きざまの上に  
 活かさせてもらうのでなかったら  
 いくら読んでも 聞いても  
 むなししいということ  
 忘れていた



忘れていた 忘れていた  
 牛のような 静かな 澄<sup>す</sup>んだ  
 うるおいのある目で  
 物ごとを見るのでなかったら  
 ほんとうのことは  
 なんにも見えないということ  
 ものほしげなキョロキョロした目  
 おちつきのないイライラした目  
 うるおいのないカサカサした目  
 何かに頭を縛られた偏った目では  
 しあわせのどまんなかにも  
 しあわせなんか見ること  
 いただくこともできないまま  
 せっかく恵んでいただいた  
 二度といただけない人生を  
 むなしく過<sup>す</sup>ごしてしまうこと  
 なるのだということ  
 忘れていた  
 ああ

【参照：中川真昭著『人が生きる根を育てる』】

専徳寺納骨堂受付中

●ご報告いたします

法要余香（報恩講法要 1月28〜30日）

コロナ禍で初めての報恩講でした。一座一時間の三日間でしたが、多くの方々のご尽力で勤修することができました。

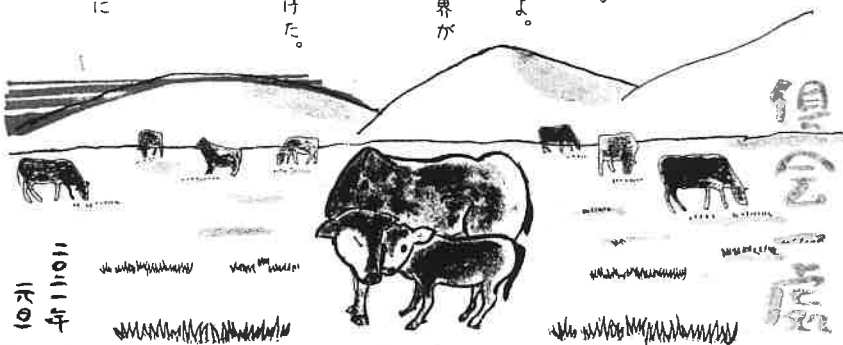
急遽お願いしたご講師白鳥先生には、品格のある浄土真宗のみ教えのお取り次ぎ賜りました。

【講師】白鳥文明師、前任職

【参詣者】28日：77名。29日：58名。30日：56名。

【お供え（ミカン）】白田憲光様。

間もなく 自分が  
 売られてゆくことを  
 察したその牛は  
 それから毎日  
 夕陽を浴びながら  
 我が子に語り続けた。  
 「もうすぐ母さんと  
 お別れが来るんだよ。  
 ても 大丈夫。  
 必ずまた会える世界が  
 あるんだよ。」  
 そしていよいよ  
 最後の夕べ。  
 それでも母は語り続けた。  
 「今度会った時  
 お前が最後まで  
 どのように  
 生き抜いたのか  
 いっぱい 母さんに  
 聞かせておく水。  
 ……ね。」



（作：福岡義朝師）